

部活動の記録

24 華道部

定例稽古

私たちは三年間、様々な花材を使って未生流（庵家）の先生から、華道の基本の形を丁寧に教えていただきました。月に1回の活動ですが、毎回様々な花材に向き合い、その花それぞれの自然なままの形（枝振りや花の向き等）を生かしつつ、手を入れるべきところには思い切って手を入れ、作品を制作していきます。日常の時間とは違った、花と静かに対話するその時間は、自分の内面と向き合っているような貴重な時間でもありません。活け花は、見えないところにも様々な工夫が凝らされており、花と器が一体となつて一つの作品が完成します。同じ花材を用いて、同じ花型の作品を作っても、活けられる花の個性と、活ける人の個性によって作品はひとつひとつ異なる味わいを持ったものになります。そうしたことを、毎月の定例稽古を通して学びました。

文化祭展示

部員一人一人が個性を生かした作品を制作しました。今年は部員が少なく、共同作品は作成しませんでした。今年も共同作品を作成することもあります。

